岩手・大槌 AMDA運営

健康支援施設増設へ

手狭、来春完成目指す

国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市北区伊福町）は東日本大震災の被災地・岩手県大槌町で、被災者支援の一環として運営している「健康サポートセンター」の増設を計画している。鍼灸治療や交流活動は好評だが、手狭で利用者が限られ、住民ニーズに十分応えられていないと判断した。年明けに着工見込みで、来年春までの完成を目指す。

センターはAMDAが同町の空き地を借りて昨年12月に開所。鉄骨平屋約40平方㍍で、鍼灸院と交流スペースがある。

鍼灸院は現在、地元の鍼灸師佐々木賀奈子さん(49)が平日の午前10時～午後6時に運営。被災者らが毎日利用しているが、ベッドが1台で予約が2～3週間先になることも珍しくないという。

交流スペースもヨガ教室やパンづくり、手芸教室、被災者とボランティアの交流行事などを実施。ただ、参加者が多いイベントでは近くの体育館を借りることもあった。

AMDAによると、センターは被災者が先行きの見えない避難生活の悩みやストレスを訴える場でもあり、心のケアにもつながっているという。計画では建物を増築してそれぞれのスペースを2～3倍に拡大。鍼灸師などスタッフの増員も検討している。

AMDAボランティアセンターの谷佳世事務局長補佐は「復興の道のりはまだ遠く、高齢の被災者らは仮設住宅に閉じこもるなど孤立しがち。センターの増築で今以上に、みんなが集い元気が出せる場にしたい」と話している。（杉本明信）

増設が計画されているAMDAの健康サポートセンター＝岩手県大槌町（AMDA提供）